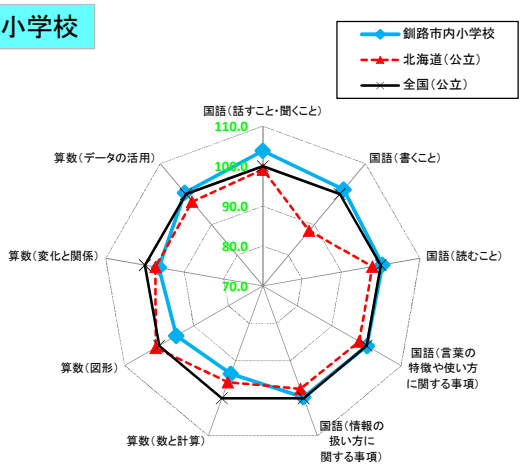
■釧路市内の状況及び学力向上策　（小学校数:26校 、児童数:987人）（中学校数:15校 、生徒数:956人）

【教科全体の状況】

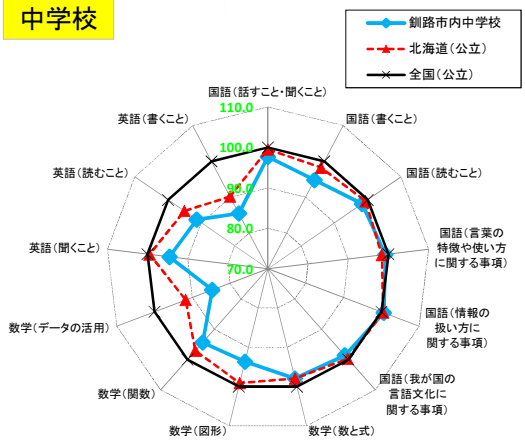
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	69
算数・数学	60	48
英語	－	42

小学校

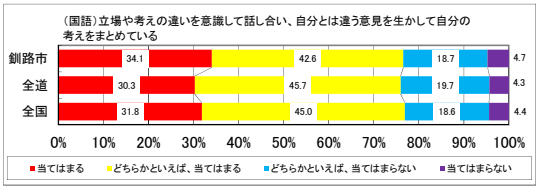


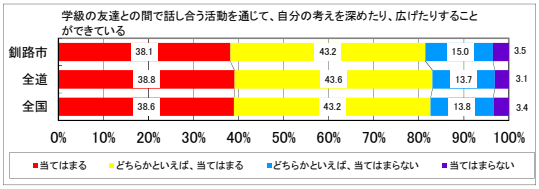
中学校

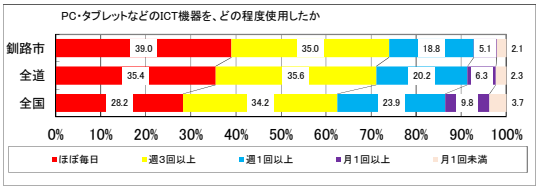


【質問紙の状況】

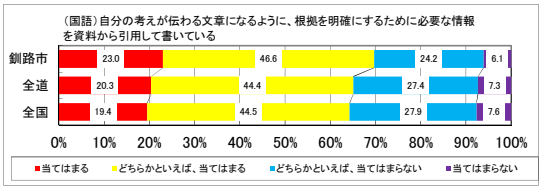
小学校

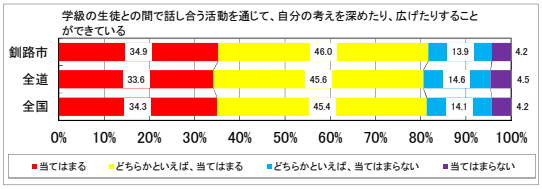


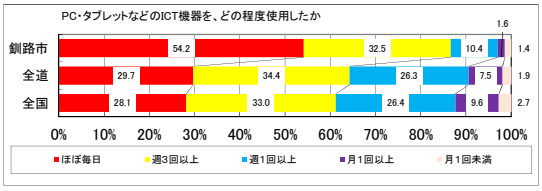




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
市全体で、授業改善に係る研修会等を継続的に実施してきたことや、国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめる活動が充実したことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	市全体で、授業改善に係る研修会等を継続的に実施してきたことや、国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書く活動が充実したことにより、授業改善が図られ、国語の「情報の扱い方に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
市全体で、言語活動の充実に向けて全教員が同じ方向性で授業づくりを行うことができるよう「目指す授業の姿」を示したことにより、授業において話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている児童の割合が高くなってきたと考えられる。	市全体で、言語活動の充実に向けて全教員が同じ方向性で授業づくりを行うことができるよう「目指す授業の姿」を示したことにより、授業において話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
1人1台端末の活用に係る研修会を継続的に実施したり、実践事例等を定期的に周知したりしたことにより、授業における端末活用の促進が図られたと考えられる。	1人1台端末の活用に係る研修会を継続的に実施したり、実践事例等を定期的に周知したりしたことにより、授業における端末活用の促進が図られたと考えられる。

【釧路市の学力向上策】

◎　釧路市標準学力検査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立（調査結果を踏まえた学力向上プランに係る協議及び見直し）

◎　教員の資質能力の向上に係る研修会等の実施（学力向上セミナー、釧路教育研究センター研修講座、初任段階教員の授業力向上研修等）

◎　授業力向上事業の実施（授業マイスターの認定と授業マイスターによる授業公開、秋田県大館市授業マイスターを招聘した示範授業及び研究協議、授業動画交流サイトの開設、学力向上推進委員会の設置、外国語教育アドバイザーによる巡回指導等）

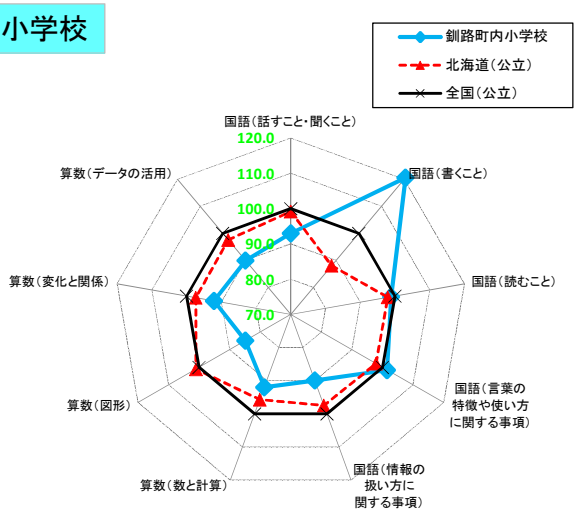
◎　一次訪問の実施（すべての教員の授業参観と指導）

■釧路町内の状況及び学力向上策　（小学校数：5校 、児童数：115人）（中学校数：4校 、生徒数：125人）

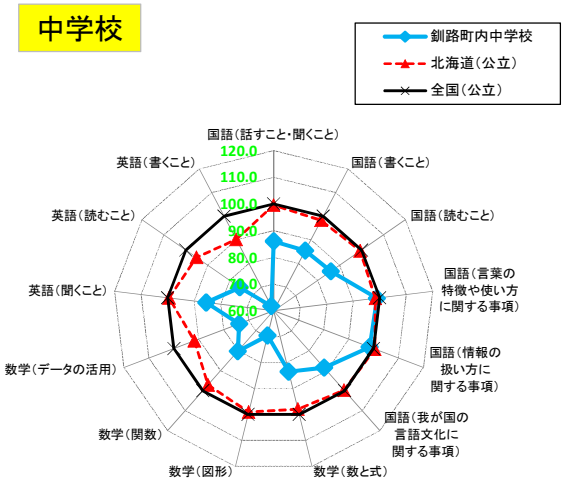
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

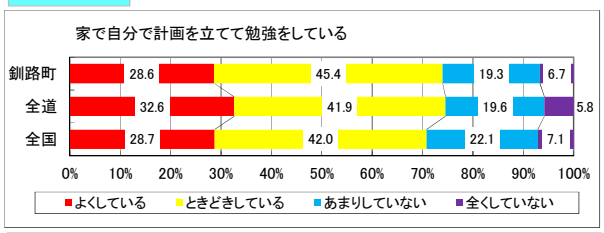


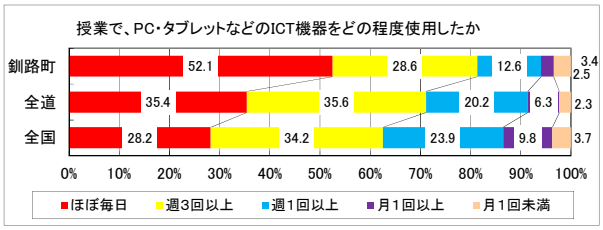
中学校



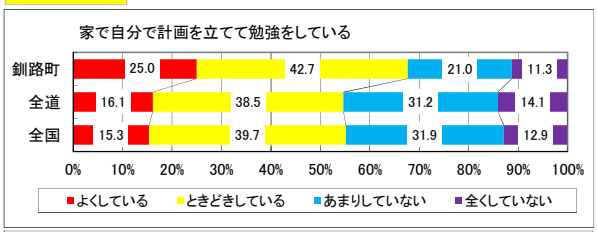
【質問紙の状況】

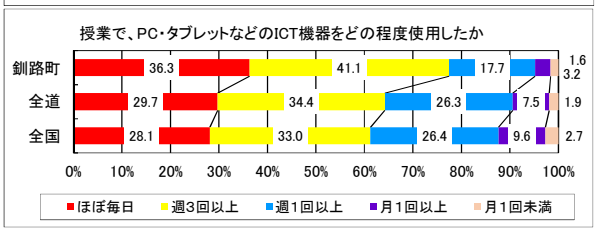
小学校





中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習について具体例を挙げながら指導したことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国と同様になったと考えられる。	「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習について具体例を挙げながら指導したことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
全ての学校に国語のデジタル教科書を導入し、効果的な活用に向けた町教委主催の研修会を行ったことなどにより、各校で積極的に1人1台端末を活用した授業改善が進み、国語の「書くこと」の領域と「言葉の特徴と使い方に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	全ての学校に国語のデジタル教科書を導入し、効果的な活用に向けた町教委主催の研修会を行ったことなどにより、各校で積極的に1人1台端末を活用した授業改善が進み、国語の「言葉の特徴と使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で、全国の平均正答率と同様になったと考えられる。

【釧路町の学力向上策】

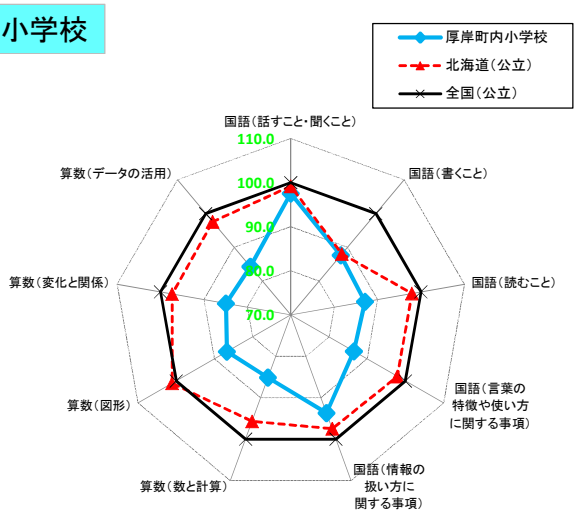
◎　小中連携の強化に向けた合同研修会の場として「地域連携部会」と「教務担当者交流会」の実施（年間各3回ずつ）
◎　1人1台端末等の効果的な活用を図るための町研ICT特別委員会（年間4回）と町教委との共催によるICT活用研修会の実施
◎　「学力・学習状況改善プラン」（年間3回）による、検証改善サイクルに基づく各校の取組の推進
◎　「家庭学習の手引き」の配付、「生活リズムチェックシート」（年間2回）及び「メディアコントロール・プロジェクト」による望ましい学習・生活習慣の定着に向けた取組の推進
◎　1人1台端末を日常的に持ち帰り、家庭学習で活用することができるようにするための環境及び体制の整備

■厚岸町内の状況及び学力向上策　（小学校数:3校 、児童数:64人）（中学校数:3校 、生徒数:52人）

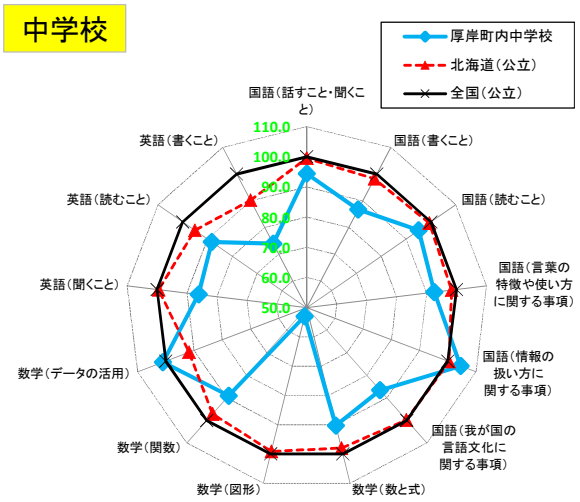
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

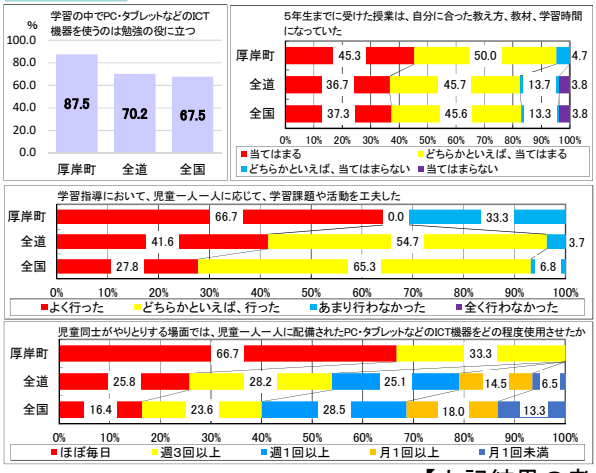


中学校

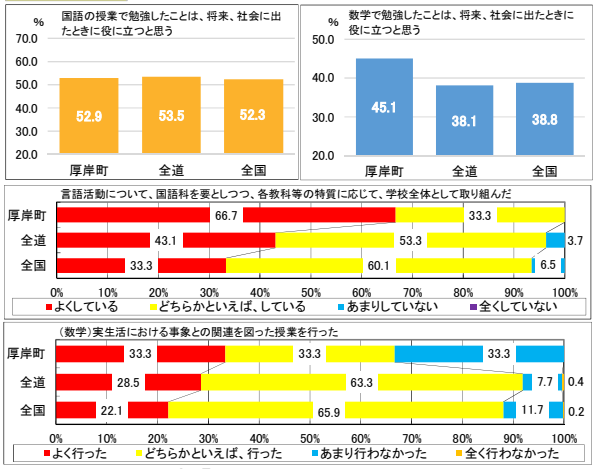


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
各教科等の授業で、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	各教科等の授業で、言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業で勉強したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、国語の「情報の扱い方に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
国語科を中心とした各教科等の授業で、児童同士がやりとりする場面において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域と「情報の扱い方に関する事項」で、全国の平均正答率に近付いたと考えられる。	数学の授業で、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学で勉強したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「データの活用」の領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【厚岸町の学力向上策】

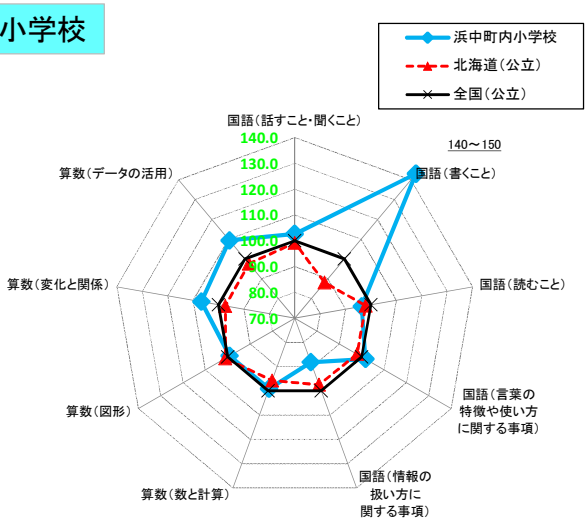
- ◎　習熟度別少人数指導やティーム・ティーチング及びICTを活用した指導など個に応じた指導の推進
- ◎　保育所・小学校・中学校・高等学校教職員による合同研修会の実施や早期の中学校における乗り入れ授業等の実施
- ◎　家庭と連携した児童生徒の生活習慣の改善及び地域と協働した教育活動の実施
- ◎　1人1台端末を効果的に活用した授業改善を図る研修会の実施

■浜中町内の状況及び学力向上策　（小学校数：4校 、児童数：34人）（中学校数：4校 、生徒数：36人）

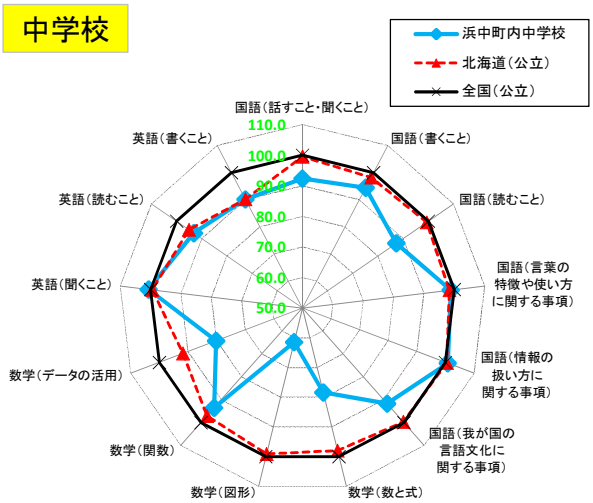
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

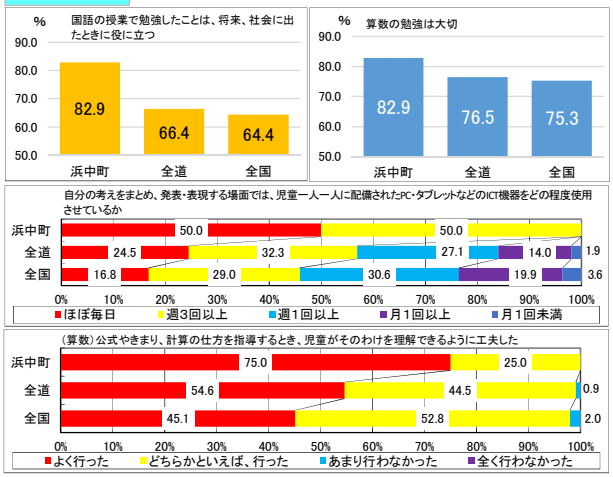


中学校

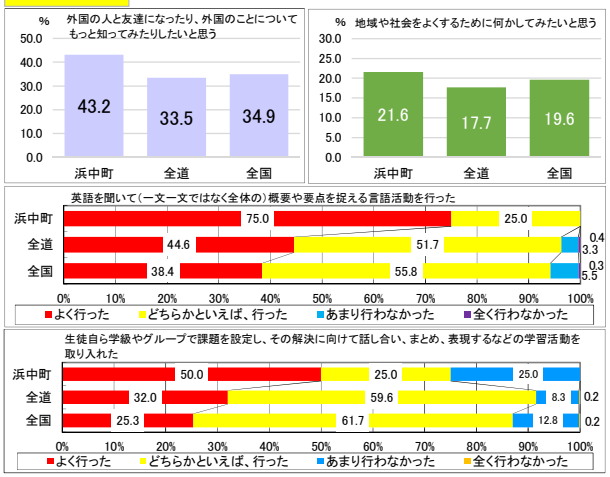


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
各教科等の授業で、学習支援アプリを導入したオンラインによる双方向型授業を取り入れたり、国語科の授業を中心として、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、1人1台端末を週3回以上使用させたりしたことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「書くこと」の領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	英語の授業で、小学校外国語専科教諭と中学校外国語科教諭との連携や外国語実習助手（ALT）の効果的な活用を推進し、英語を聞いて概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ってみたりしたいと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「聞くこと」の領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
算数の授業で、公式やきまり、計算の仕方を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の勉強は大切と回答する児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「変化と関係」「データの活用」の領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	教員の資質能力の向上研修会を実施し、総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントを推進するとともに、課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動を行ったことにより、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浜中町の学力向上策】

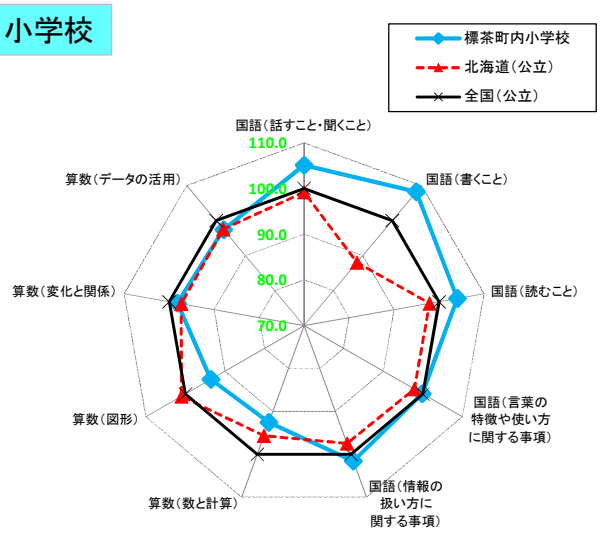
◎　全国学力・学習状況調査及び町独自の学力調査を踏まえた「学力向上推進計画」の組織的な運用と校種間での交流
◎　小学校外国語専科教諭と中学校外国語科教諭との連携及び外国語実習助手（ALT）の活用
◎　教員の資質能力の向上研修会の実施及び支援（教務主任等ミドルリーダー研修会、浜中町初任者研修）

■標茶町内の状況及び学力向上策　（小学校数：5校 、児童数：45人）（中学校数：3校 、生徒数：49人）

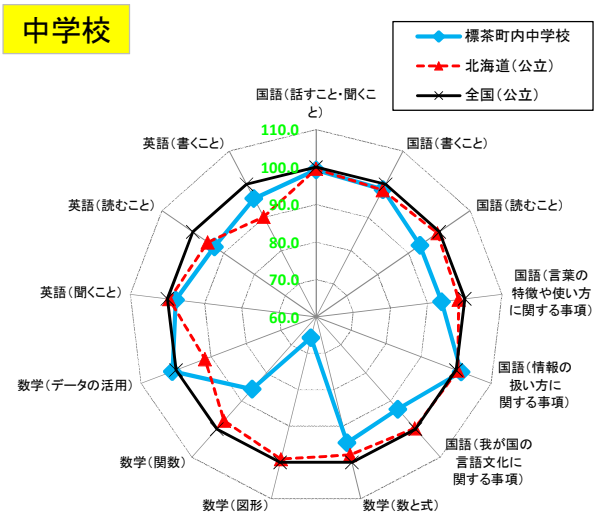
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

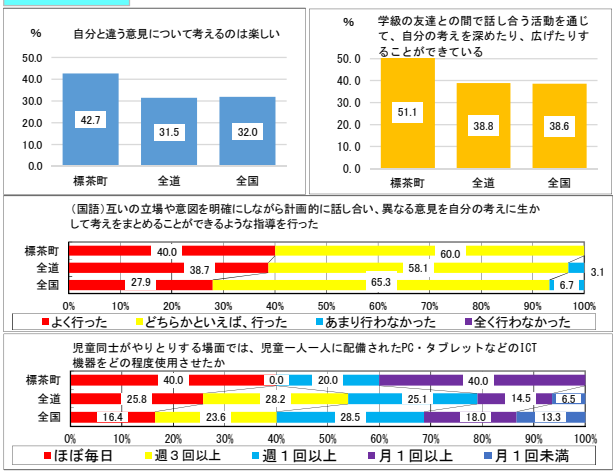


中学校

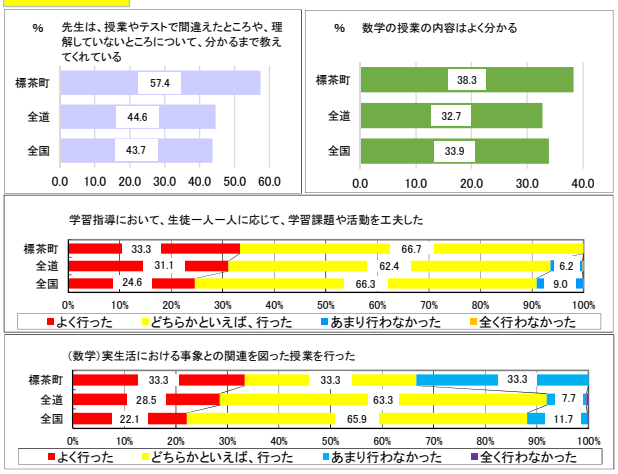


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業で、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、国語の3領域1事項で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町として、自分の考えを表現する力の育成を目的とした、授業力向上に向けた授業研究を推進したことや、児童同士がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させる学校が増加したことにより、授業改善が図られ、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業で、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「データの活用」の領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【標茶町の学力向上策】

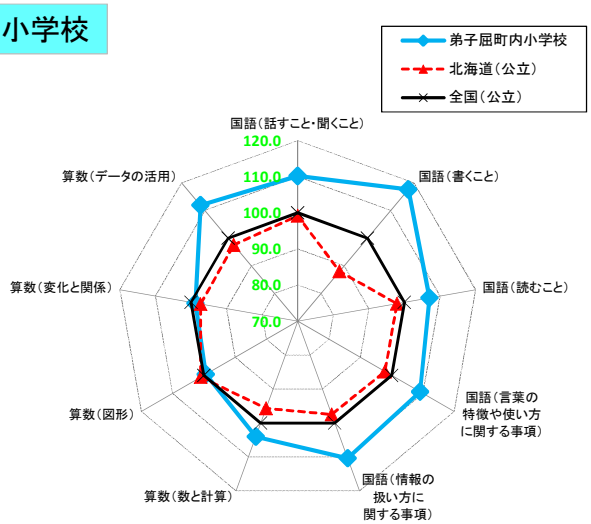
◎　小学校と中学校の円滑な接続や系統的な指導実践の交流を図る授業力向上に向けた授業研究の実施
◎　教師のICT活用指導力向上を図る標茶町教育研究所ICT特別委員会の開催と標茶町ロイロノート活用研修会の実施
◎　標茶町学力サポートプラン（CRT標準学力検査・i-check）の実施

■弟子屈町内の状況及び学力向上策　（小学校数：4校 、児童数：35人）（中学校数：2校 、生徒数：55人）

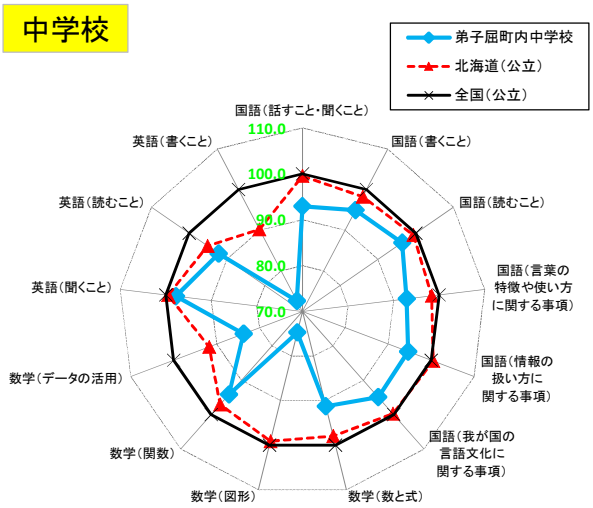
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

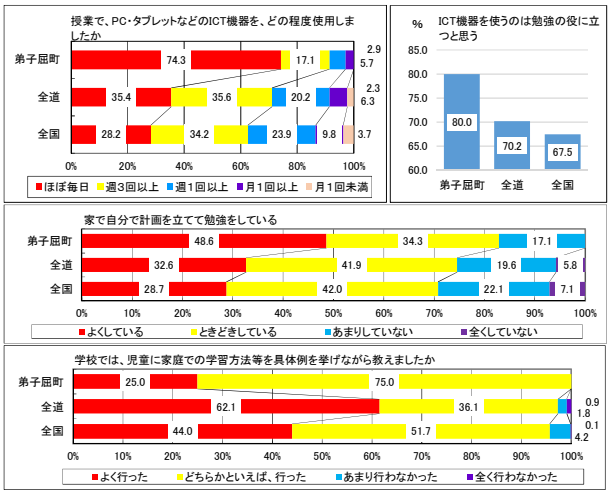


中学校

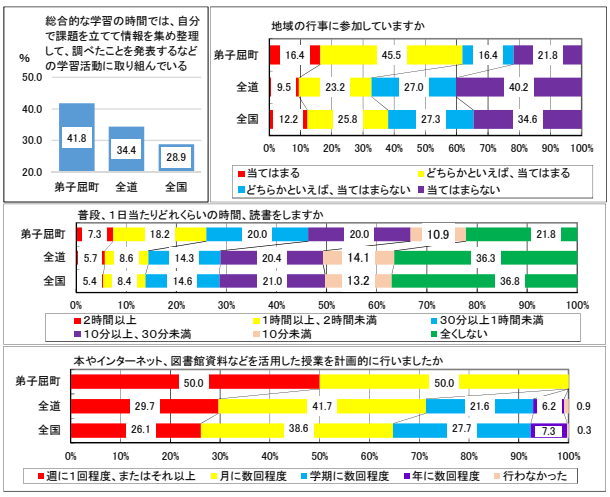


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
教育委員会から全家庭に「町の教育テーマ」を配付したり、各小学校で家庭学習の手引を作成し、授業と連動した家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたりしたことにより、自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の全領域・事項、算数の2領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったり、学校の図書コーナーを地域や保護者と一緒に整備したりしたことにより、生徒の読書習慣が改善され、国語の「読むこと」の領域で、全国の平均正答率に近づいたと考えられる。
ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る校内研修を推進し、ICTを日常的に活用した授業改善を図ったことにより、ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	総合的な学習の時間において、地域を学びのフィールドとし、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだことにより、地域に対する愛着や誇りが育まれ、地域の行事に参加していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【弟子屈町の学力向上策】

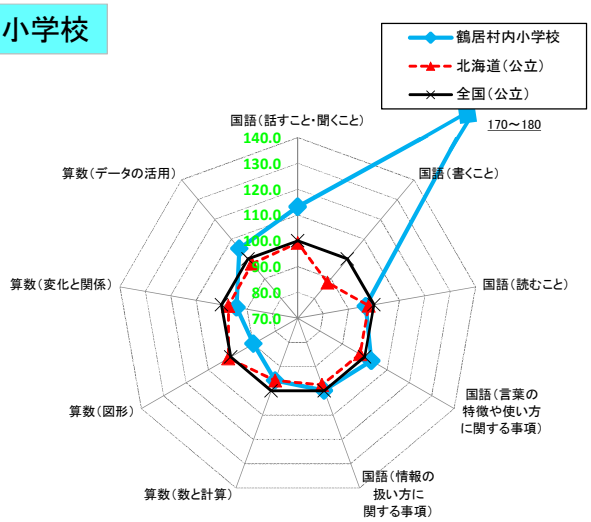
- ◎　各種調査結果を活かした学習指導の工夫改善等、町や各学校の学力向上プランの着実な推進による検証改善サイクルの確立
- ◎　学校、家庭における、各種調査結果及びメディア利用に係る課題の共有による生活習慣の改善及び学習習慣の確立
- ◎　ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る校内研修の推進
- ◎　町の子ども読書活動推進計画に基づく、関係機関・団体と連携した読書の習慣化に向けた取組の推進

■鶴居村内の状況及び学力向上策　（小学校数：3校 、児童数：15人）（中学校数：2校 、生徒数：27人）

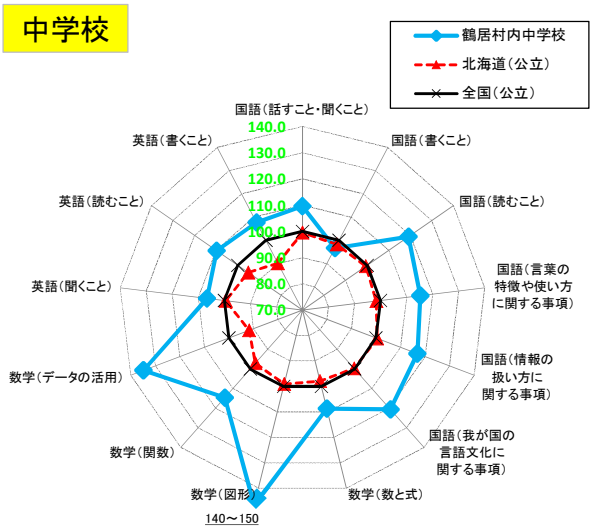
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

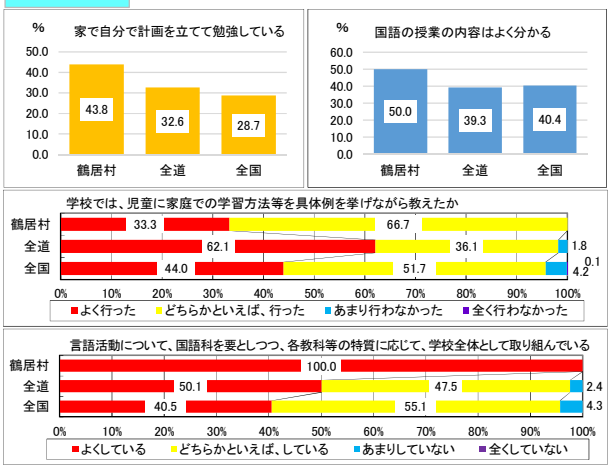


中学校

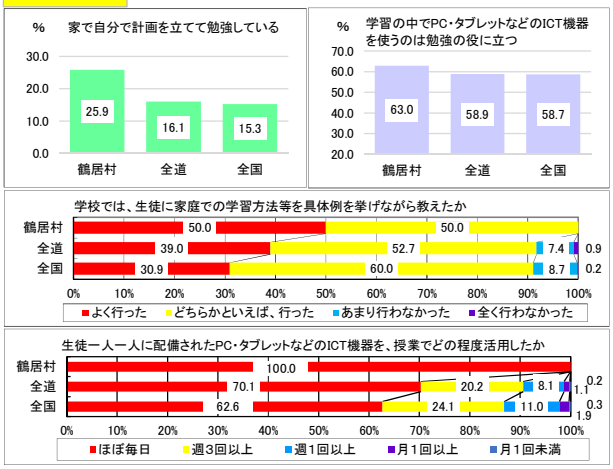


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
家庭での学習方法等を具体例を挙げながら指導を行ったことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	家庭での学習方法等を具体例を挙げながら指導を行ったことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	鶴居村の学力向上策の1つである、1人1台端末の日常的な活用による授業改善の取組を各教科等で推進し、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の2領域3事項、数学の全領域、英語の3領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【鶴居村の学力向上策】

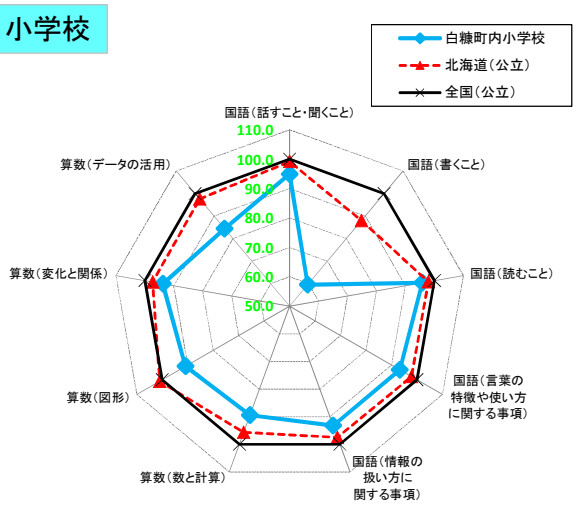
◎　各学校の検証改善サイクルの改善及び教育委員会と学校間との連携を密にした体制による学力向上システムの確立
◎　「授業スタイルの基本型」や「学習規律」の村内全校・全教科における共通理解及び実践の促進
◎　学校の実態や状況に合わせた家庭と連携した学習環境の充実
◎　児童生徒の個々に応じた学習支援や1人1台端末の日常的な活用による授業改善の促進

■白糠町内の状況及び学力向上策　（小学校数：3校 、児童数：44人）（中学校数：3校 、生徒数：37人）

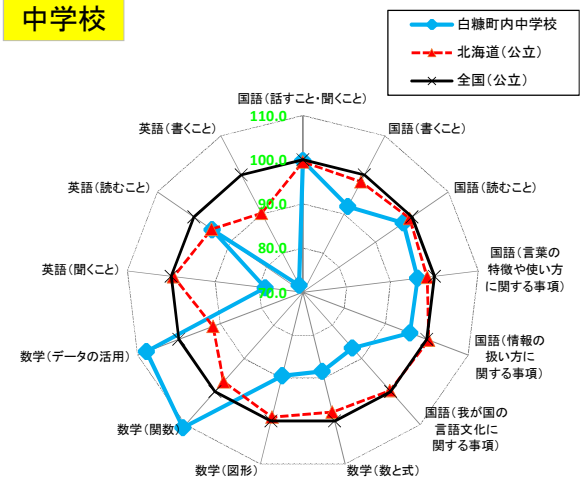
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

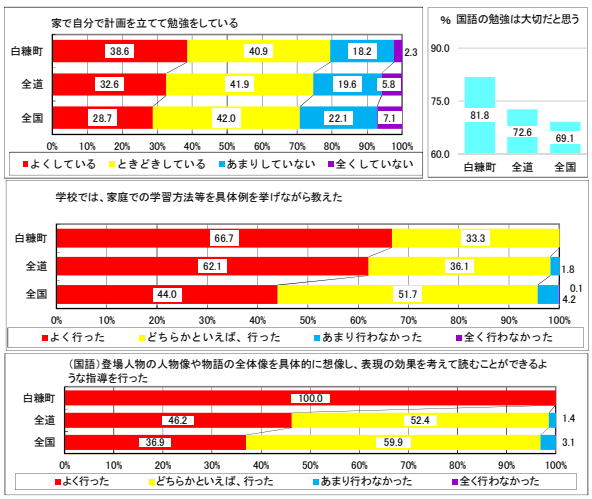


中学校

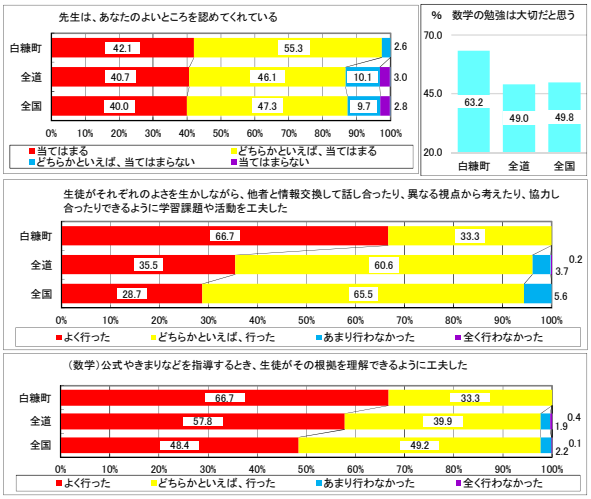


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
小中一貫教育による義務教育9年間を見通した系統的かつ発展的な教育課程の推進を基に、国語の授業で、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるよう指導したことなどにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で全国の平均正答率に近づいたと考えられる。	小中一貫教育による義務教育9年間を見通した系統的かつ発展的な教育課程の推進を基に、数学の授業で、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことなどにより、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「関数」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
関係機関と連携を図り、放課後学習サポートを実施したり、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたりするなど、個に応じた指導を推進したことにより、自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒がそれぞれのよさを生かしながら、話し合ったり、考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫するとともに、ICT等を活用して生徒のよさを積極的に評価する個に応じた指導等を推進したことにより、先生はあなたのよいところを認めてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【白糠町の学力向上策】

◎　小中一貫教育による義務教育9年間を見通した系統的かつ発展的な教育課程の推進
◎　乗り入れ指導や習熟度別少人数指導及びICTを活用した指導など個に応じた指導の推進
◎　関係機関と連携を図った放課後学習サポートの実施と拡充（小学校全学年）